

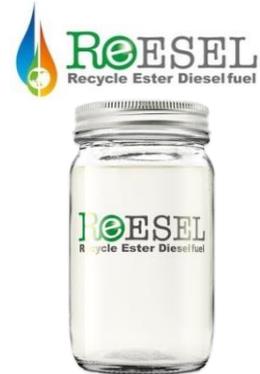
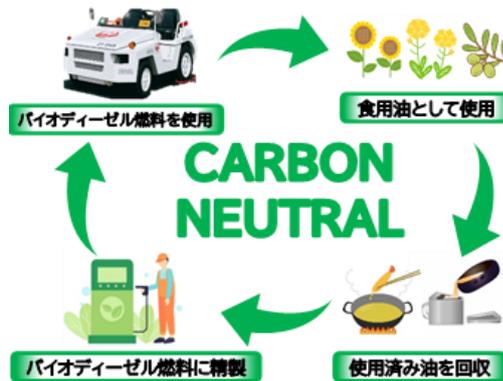
## 大分空港初、空港内作業車両で 高純度バイオディーゼル燃料「B100燃料」の実証実験を開始

JALは、CO2排出量削減への取り組みの一環として、大分空港配備の空港内作業車両であるトーイングトラクター<sup>(※1)</sup>に高純度バイオディーゼル燃料濃度100%の「B100燃料」を使用する実証実験を、2023年11月1日より1年間にわたり開始します。

「B100燃料」は、国東市が地球温暖化防止を目的として実施する事業「くにさきわくわく油田プロジェクト」により、市内各地の拠点から回収された各家庭の使用済みてんぷら油（廃食用油）を原料として精製されています。この取り組みは地域で使用する地産地消の循環型エネルギーで、軽油と比べて1リットル当たり2.62kg<sup>(※2)</sup>のCO2排出量削減の効果が見込めます。なお、実施にあたっては、一般社団法人高純度バイオディーゼル燃料事業者連合会<sup>(※3)</sup>の会員である、くにさきエコシステム株式会社（大分県国東市）が「B100燃料」の製造・供給を、国東重販株式会社（大分県国東市）が車両への給油を担当します。



トーイングトラクター



バイオディーゼル燃料(B100燃料)

JALはこの実証実験を通じて地域や社会と連携、協働して「CO2排出実質ゼロ」実現のために、持続可能なエネルギー利用によるCO2排出削減に取り組んでまいります。

(※1) 空港制限区域内にて航空貨物やお客さまの手荷物の運送用コンテナを牽引する車両。

(※2) 「B100燃料」の原料の一部である植物油は植物の成長過程において光合成を行うことでCO2を吸収しているため、カーボンニュートラルの概念で燃焼時のCO2排出量はプラスマイナスゼロとなることから得られる削減量です。

(※3) 高純度バイオディーゼル燃料の製造量拡大・普及・利用推進を目指し結成された団体。全国約60社の参加により運営。

(燃料製造業、建設業、廃棄物処理業、石油流通業等が加盟)

【期 間】 2023年11月1日～2024年10月31日(1年間)

【対象空港】 大分空港(大分県国東市)

【対象車両】 大分空港配備 JALトーイングトラクター 1台

【実験内容】 高純度バイオディーゼル燃料濃度100%の「B100燃料」をトーイングトラクターに使用



**くにさき  
わくわく油田  
プロジェクト**  
produced by Kunisaki City



以上

【問い合わせ先】日本航空株式会社 大分支店(097-538-0770)